

# いわき農林水産ニュース

(ごちそう ふくしま絆づくり運動ニュース)

2月号 発行 平成25年 3月 6日



## 〈東日本大震災関連〉



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング調査結果

福島県が行ったいわき地方の1月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング調査結果をお知らせします。

調査した15品目48検体のうち、14品目47検体は検査機器の検出限界値以下でした。基準値内で検出があった1品目は大豆で、基準値を超えたものはありません。品目としては、野菜、畜産物、原乳の検体すべてにおいて検出が認められませんでした(表1、2)。2月10日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が規制されているのは、ユズ、くり、たけのこ、ぜんまい、たらめ(野生のものに限る。)、わらび、こしあぶら、野生きのこ、原木なめこ(露地栽培)となっています。

また、平成24年産の米は、全袋検査を実施しており、1月末までの検査点数、503、767点のうち99.7%の502、276点が測定機器の検出限界値以下、1、480点が基準値内で検出が確認されました。もち米1点が基準値を超過しましたが、管理され市場には出回っておりません。調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、24年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。

(表1) 農林畜産物の調査結果(1月)

放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数	放射性セシウムが検出された品目と検体数		計
	基準値内で検出された品目と検体数	基準値を超過した品目と検体数	
14品目 47検体	1品目 1検体	0品目 0検体	15品目 48検体

(表2) 1点も放射性セシウムが検出されなかった品目と検体数

・トマト(施設) 1	・コマツナ(施設) 2	・イチゴ 3
・ブロッコリー 2	・シュンギク(施設) 1	・原乳 5
・葉ネギ(施設) 1	・ミニトマト(施設) 1	・ネギ 3
・コマツナ 1	・畜産物 23	
・菌床しいたけ(施設) 2	・菌床なめこ(施設) 2	



## 農産物風評被害対策事業 を実施しました

この事業は、いわき地方における学校の給食や調理実習において、県が放射性セシウムの測定結果及び産地情報を添付したいわき産の農産物を食材として供給することで、いわき産の農産物についての理解と消費拡大による地産地消を推進することを目的として、いわき農林事務所が取り組んでいる事業です。

1月23日(水)から30日(水)にかけて、県立好間高等学校へはいわき産米「天のつぶ」を、県立磐城農業高等学校、県立平養護学校、県立いわき養護学校へはイチゴ「ふくはる香」を提供しました。

県立好間高等学校では、いわき産米「天のつぶ」を炊いたご飯を主食に、手早くできる中国料理の献立3品をつくりました。生徒たちは、「すごくおいしい。」と見事な食べっぷりだったと報告がありました。

県立磐城農業高等学校では、生活学科の家庭科クラブ員による農業クラブの研究活動としていわき産のイチゴ「ふくはる香」を使ったイチゴジャムとカットイチゴ入りマフィン、イチゴジャム入りマフィンをつくりました。生徒からは、「酸味と甘味があり実がつまっていておいしかった。」「今後も地元産イチゴの料理を考え、普及していきたい。」といった感想が聞かれました。

県立平養護学校及び県立いわき養護学校では、「ふくはる香」をそのまま給食のデザートにしました。県立いわき平養護学校では、児童からの「甘くておいしい。またこのおいしいイチゴを食べたい。」という感想が聞かれたほか、お昼の放送でイチゴの品種について紹介したところ、先生から「初めて食べる品種だが、粒が大きく甘かったので、店頭等で購入したい。」という希望が聞かれました。一方、県立平養護学校では、給食だよりも今回の給食でいわき産のイチゴ「ふくはる香」を使用したことに関する記事を掲載して、保護者の方々にお知らせする予定となっています。

どの学校でも地元産の農産物を身近に感じ、おいしく味わうことができたようです。

前回3月1日発行の内容(学校の名称)に一部誤りがあったので訂正しています。

いわき農産物安全確認モニタリング検査結果報告書		
いわき市・いわき市農産物協同組合		
採集番号	1-2012-11-27-010	
検査日	平成24年11月27日(火)	
採集種別	イチゴ	
生産者名	田仲 敬宗	
採取者名	田仲 敬宗	
購入者名	第一百貨株式会社	
受取人名	藤沼 基次	
測定結果	セシウム	検出値 100Bq/kg
	の8割	測定値 10Bq/kg未満
産地者名	中野 一弥	

いわき市・いわき市農産物協同組合、いわき市農産物協同組合では、平成23年9月20日より、いわき市産農産物の安全・安心の透明性を高めるため、NRIシンプレックス®検査設備を利用し、県の認定分析センターで検査と併せ、各自に採集農産物の放射性物質検査を実施しております。

(放射能セシウムの検査結果)



(好間高校・「天のつぶ」と中国料理の献立)



(磐城農業高校・イチゴ「ふくはる香」のマフィン)



(平養護学校・給食デザートイチゴ「ふくはる香」)



(いわき養護学校・給食デザートイチゴ「ふくはる香」)

## 〈一般情報〉



いちご大好き！  
～いちご祭り～

1月22日(火)、JAいわき市と同JAいちご部会主催の「いちご祭り」が、いわき市平の神谷(かべや)幼稚園で開催されました。

いちご祭りは、幼稚園等の子どもたちに「とれたてのイチゴを食べて欲しい」という生産者の思いから始まった「いわきいちご」の消費拡大とブランド確立を図る取り組みです。

昨年度は、震災の影響により中止しましたが、風評の払拭に向け、安全・安心ないわきいちごをPRしようと、部会員が一丸となり、今年度、復活しました。

園児たちは、皿いっぱい真っ赤に色づいた大粒の“いわきいちご”(ふくはる香ととちおとめ)を「おいしいね」、「甘い!」とほおばり、あっという間に皿を空っぽにするなど、大好評でした。

皆様も、塩屋崎灯台が印刷された包装フィルムが目印の“いわきいちご”をぜひ味わってみてください。



(いわき農産物マスコットキャラクター「アグリ☆5」の「さる1号(いちご)」も来場!)





(いわきいちごをほおぼる子どもたち)



### 田んぼの学校「修了式」 を開催しました

「田んぼの学校」とは、『「ふくしまの農育」推進事業』の一環として、一年間を通して主に米づくりに関わる仕事を体験する環境教育事業で、本年度はいわき市立赤井小学校と連携し主に5年生児童65名を対象に実施しています。

1月29日(火)、今年度最後の活動として、修了式を行いました。

児童代表のはじめの言葉の後、赤井小学校校長、地元協力者の根本さん、農林事務所の長谷川副部長からあいさつがあり、続いて根本さんから各児童それぞれに修了証書を授与しました。

次に児童代表から「田んぼの学校」を実施した感想を含めて、根本さんや農林事務所に対するお礼の言葉が述べられました。

最後に児童代表の終わりの言葉を受け、クラス毎に分かれて修了証書を持って記念撮影を行い活動を修了しました。



(修了証書を受け取る児童)



### クラスター分科会試作品 首都圏モニター調査を実施 しました

いわき農林事務所では、地域産業6次化ネットワークのクラスター分科会<sup>※</sup>でジェラートの開発を行ってきました。2月2日(土)から3日(日)にかけ今回試作したジェラートのモニター調査をイトーヨーカドー葛西店(東京都江戸川区東葛西)内にある福島県アンテナショップ「ふくしま市場」で行いました。大消費地である首都圏で消費者の意見を直接聞くことにより、商品のさらなる改良を行うのが目的です。

「ふくしま市場」は、全国のアンテナショップの中でも珍しくスーパーマーケット内にあり、モニター調査にはうってつけの場所です。

調査は、まず来店者に2種類のジェラート(【梨+醤油】【「天のつぶ」で醸造した日本酒】)をそれぞれ試食してもらい、その後、アンケートに答えてもらう方法で行われました。アンケートは、味の評価や素材の濃さ、パッケージの印象など7項目を7段階で評価し、そのほか最適と思う購入価格についても回答していただきました。

「もっと、梨や日本酒を強調するパッケージにした方がよい。」、「商品化された場合、購入するかどうかは値段次第だ。」などさまざまな声が寄せられ、今後の商品開発の参考になりました。

2日間で延べ412名からのアンケートの協力を得ることができました。

アンケートの結果は、クラスター分科会やネットワーク交流会でお知らせすることになります。

※クラスター分科会とは…

コーディネーターを中心に地域の特産品づくりを行う取り組み。



(モニター調査の様子)



## 中山間ふるさと水と土保全 対策事業いわき方部研修会 を開催しました

2月8日(金)、いわき駅前のラトブ6階にあるいわき産業創造館において、中山間ふるさと水と土保全対策事業のいわき方部研修会を開催しました。農地・水保全管理支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金の活動組織から約170名の参加がありました。

この事業は、中山間地域の地域住民活動の活性化に関するリーダー等を育てることを主目的として開催しています。この日の内容は、いわき食彩館(株)代表取締役の松崎康弘さんの「みんながつくる地域の力～遊休農地の魅力～」と、NPO法人いわき環境研究室理事長橋本孝一さんの「水環境を考えよう」という二つの講演でした。松崎さんからは、自身が理事長を務めておられるいわきオリーブプロジェクト研究会の活動内容の報告と現代の農業の問題点について、橋本さんからは、持続可能な世界に向けての課題と、水田の持つ多面的機能及び農村の水環境に関する考察についての講演がありました。参加者は、熱心に話を聞き、質疑応答の時間にはいわきオリーブプロジェクトの今後の展開についての質問等がありました。いわき農林事務所では、地域の皆さんと一緒に農村の抱える問題の解決に努めていきます。



(熱心に聞き入る参加者たち)



## ごはん簡単アイデア クッキング大会が開催 されました

2月9日(土)、いわき米改良協会主催のサンシャインいわき米「第8回ごはん簡単アイデアクッキング大会」が、いわき市中央台公民館で開催されました。

クッキング大会は、「創作おべんとう料理～ごはんが一番！！～」をテーマとした「サンシャインいわき米」の創作料理(レシピ)を一般消費者を対象に募集し、書類審査により選出された6名が実技等を行うものです。

参加者は、展示用と試食用の料理を手際よく調理し、できあがったものの審査を受けました。審査の結果、クッキング大賞には、料理名『メタボな夫へ「いろいろ野菜のお弁当」』の吉田美香さんが選ばれました。

今回、出品された創作料理6作品については、レシピ集を作成し、関係機関・団体・教育機関等に配布される予定です。今後、このレシピにより、サンシャインいわき米の消費拡大につながることを期待されます。



(腕を振るう参加者たち)



## 大野第二地区で 「安全祈願祭」及び 「起工式典・祝賀会」が 開催されました

2月14日(木)、いわき市四倉町中島構造改善センター南側の現地において県単経営体育成基盤整備事業大野第二地区の「安全祈願祭」及び「起工式典・祝賀会」が開催されました。

本地区は平成23年度に事業採択され、平成28年度までの6年間で、総事業費約3億8千万円、受益面積23haのほ場を整備するものです。今年度の工事は、田村市の富士工業(株)が受注し、区画整理工事(面



積11.6ha)に着手することとなりました。

安全祈願祭では、戸井田いわき農林事務所長、渡辺いわき市長、鈴木千軒平溜池土地改良区理事長、長谷川ほ場整備組合長らが鍬入れした後、関係者が玉串を捧げて工事の安全を祈願しました。

その後、中島構造改善センターにおいて「起工式典・祝賀会」が開催されました。土地改良区理事長の挨拶に続いて、出席された来賓の方から「東日本大震災、原発事故など多くの困難な状況が続いているが、この事業を契機として地域農業の活性化及び農家経営の安定化が図られるよう関係者一丸となって農家が喜んでもらえるほ場づくりを目指して欲しい。」との期待の込められた祝辞が述べられました。

出席した組合員からは、「ようやく工事が始まって良かった。」、「使い易い田んぼになるぞ。」などと喜びと期待の声上がり、皆一様に着工を祝っていました。

今後は、地元の意見・要望を反映させながら、無事故での工事完成を目指していきます。



(大野第二地区全景)



(いわき農林事務所長による鍬入れ)



## いわき市農林業賞授賞式が開催されました

2月14日(木)、いわき駅前のラトブ6階にあるいわき産業創造館でいわき市農林業賞表彰式が行われました。いわき市農林業賞は、農林業の技術向上や経営の改善、農林業の発展などに功績のあった個人・団体を昭和52年度から表彰しており、平成24年度は、個人及び協業経営の部で鵜沼源栄さんと木戸忠重さんの両名が受賞しました。

鵜沼さんは、イチゴや水稲、野菜の露地栽培に取り組み、「ふくはる香」などイチゴの新品種の取り入れなどで経営の安定化を図ったほか、JAいわき市いちご部会長としていわきいちごの普及や消費拡大に貢献しました。

木戸さんは、南部地域の稲作作業受託にいち早く取り組み、年々作付け面積を拡大し、新品種の作付けに挑戦したり2次加工に取り組みたりするなど、地域農業の中心的担い手を務めています。また、菌床椎茸の生産にも力を注ぎ、インターネット販売による販路拡大にも取り組んでいます。

式典後は受賞者を囲んでの意見交換会が行われ、福島県のイチゴ「ふくはる香」やお米「天のつぶ」の農業者間での評判や、LEDを使ったハウスイチゴの栽培、若手育成のための試みなど、さまざまな意見が交わされました。



(中央左：木戸忠重さん、中央右：鵜沼源栄さん)



(活発な意見交換会)



## 平成24年度 ふくしま県産木材利用推進 いわき地方連絡会議を開催 しました

2月14日（木）、県いわき合同庁舎南分庁舎において、平成24年度ふくしま県産木材利用推進いわき地方連絡会議を開催しました。

同会議は、公共建築物及び公共土木事業における県産木材の利用を推進するため、国、県及び市の公共工事等の関連部局の担当課長等を委員とし毎年定期的に開催しています。

本年度は、各部局における「県産木材の利用計画及び実績」、「いわき市地域材利用推進方針」及び「低層公共建築物向け大断面無垢材の供給体制の整備」の3議題について討議が行われました。

「県産木材の利用計画及び実績」の報告の後、「いわき市地域材利用推進方針」について、いわき市の担当者より目的や地域材利用の目標等の説明があり、続いて、協同組合いわき材加工センターの担当者より、人工林資源の充実に伴うスギ大径材の利用拡大に向けたJAS規格の認定取得等の取り組み状況について説明がありました。

室内討議後、いわき市勿来町の協同組合いわき材加工センターにおいて、大径材のJAS規格の認定に向け導入した木材の含水率測定器及び強度測定器、選木機、製材機、木材乾燥機等の施設を視察しました。

今後も同会議の定期的な開催等により、県産木材の利用拡大に向けた取り組みを続けていきます。



(現地視察の状況)



## 食彩ふくしま 地産地消推進店のメニュー の紹介



地産地消推進日（3月は8日（金））に合わせ、いわき農林事務所に情報提供のあった食彩ふくしま地産地消推進店のメニューを紹介いたしますので、ぜひご賞味ください。

なお、内容は変更する場合がありますのでご了承ください。

### 北の屋（植田町）

#### 1 推進日のメニュー

地産地消メニュー：

①鶏ごぼう南ばんうどん

②カレー南ばんうどん

説明：①いわき産のごぼう、ネギを使用

②いわき産のネギを使用

実施日：3月8日（金）

#### 2 推進日を含む毎日のメニュー

地産地消メニュー：天ぷらごはん

説明：県産米、いわき産の野菜（ごぼう、かぼちゃ、ニンジン、ナス）を使用。

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載していますのでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

- 1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧
- 2 イベント情報
- 3 農林水産物モニタリング情報
  - (1)モニタリング情報検索
  - (2)出荷制限等一覧表

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



ふくしまから  
はじめよう。

Future From Fukushima.



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。  
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課  
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地  
(県いわき合同庁舎 3階)  
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196  
U R L <http://www.pref.fukushima.jp/norin-iwaki/>  
E- Mail [iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp](mailto:iwaki.nourin@pref.fukushima.lg.jp)

